

かぜのきざし

2014 SEPTEMBER

風の萌

特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・
市民全国ネットワーク機関紙

第 027 号

2014 年 9 月 10 日

安心して子育てができ 老いても障がいがあっても 自分らしく暮らすことができる コミュニティーの創造

岡山大会 実践交流会 フォローアップのご紹介

フォローアップ選出演題 岡山大会直前にコメントを紹介

昨年の新潟大会実践交流会にて、今後より深めていただき、今回の岡山大会でも是非継続していただきたい発表を「フォローアップの推薦」として選出いたしました。大会を目前に控え、発表者より発表のポイントとなるコメントが寄せられましたので、ご紹介させていただきます。この一年間にどのような変化を遂げたかをご確認ください。

実践交流会3 認知症

徳田 英弘

(医療法人ネリヤ ファミリークリニックネリヤ)

認知症の在宅看取り20例を通して、
家族の関わりと専門職協働のあり方を考える

「在宅の認知症高齢者の対応」について、看取りの視点から、家族の役割や、専門職協働のあり方について検討した。

実践交流会3 認知症

膳 澄美

(医療法人あづま会 大井戸診療所 訪問看護)

アロマセラピーの応用

在宅緩和ケアから認知症ケアまで

この数年間のアロマセラピーの試みが成果を出し、その継続が「診療所の独自のツール」としての結果を得つつあるので本年も報告します。

実践交流会3 認知症

蒔田 節子

(医療法人あづま会 大井戸診療所)

認知症の人の訪問リハビリ②第二報
訪問リハビリで、いつまでもその人らしく、を支えたい

昨年に引き続き「認知症の人の訪問リハビリ」を報告させていただきます。

実践交流会4 口腔ケアと栄養管理

川崎 正仁

(NPO法人日本総合リハビリスト協会)

障害者を抱えた御家庭と共に歩む歯科訪問診療の
症例報告①口腔ケアを通じ障害者本人と家族の生活意欲の向上

昨年紹介された事例を引き続き報告、支えている家族の喜びも含めこの事例とともに歩んだ4年間の報告をいたします。障害者支援相談員が招集するサービ担当会議の重要性と、関係職種が全員が共通認識を持ちながらのチームアプローチで得られた成果の部分にご注目ください。

実践交流会4 口腔ケアと栄養管理

野津 清

(医療法人 あいち診療会)

家族指導とチームアプローチ

『口から食べる』を管理する

昨年までの活動を通じ、コミュニケーションを通じた「マネジメント力」の必要性についての報告です。

実践交流会6 これからの地域包括ケア

寺田 美恵子

（生活協同組合パルシステム東京 陽だまり市民評価委員会）

市民参加を促す要介護者の基本情報シート

地域包括ケアに必要なサービス活用の見直しや発見のために

昨年に引き続き「市民参加を促す要介護者の基本情報シート」の報告です。フォーマルサービスの有効な補完として、重要度を増すインフォーマルサービスの発見や開発に対するシートの可能性について、更に報告させて頂きます。

実践交流会6 これからの地域包括ケア

伊藤 和秀

（医療法人 創健会）

文京区での幼老統合ケア

1年間を振り返って

東京都文京区に幼老複合施設を開設し、1年が経過した。高齢者と子どもそして職員による世代間交流の効果と見えてきた課題について報告させていただきます。

実践交流会8 新しい試み

中村 豪志

（医療法人社団 いでした内科・神経内科クリニック）

ホスピタリティのサービス化について

昨年報告した『ダントツサービス』を通じたホスピタリティからのサービス開発のとりくみと報告です。

実践交流会8 新しい試み

水野 敏江

（医療法人 あいち診療所 あいち診療所）

あいち診療所における

「生活習慣病自己管理センター」の効果

昨年報告させていただいた「生活習慣病自己管理センター」について、その後の経過を含めた報告をいたします。

実践交流会8 新しい試み

小泉 峻

（医療法人 あづま会 大井戸診療所）

ケアプランセンターおおいど

大井戸診療所における「物忘れ外来」の事前調査その後の経過について

昨年に引き続き「物忘れ外来」の事前調査とその後の経過について報告させて頂きます。

実践交流会9 多職種情報共有

飯岡 裕子

（阿賀町役場 阿賀町地域包括支援センター）

阿賀町における介護現場での連携の取り組み

情報共有ファイル「連携ノート」のさらなる

昨年に引き続き「連携ノート」の更なる活用について報告させて頂きます。

岡山大会実践交流会

フォロアアップ対象者の

抄録集での紹介について

今年の岡山大会でも抄録集を発行いたします。大会のメインでもある実践交流会も抄録集で紹介していますが、今年は各カテゴリーで推薦されたフォロアアップ対象者の演題が一目でわかるよう工夫されています。

フォロアアップ対象者の演題には、薄くアミが掛かっており、フォロアアップのマークが付いています。さらに、発表内容とは別に担当者のコメントを掲載いたしました。是非大会前に目を通していただき、少しでも大会当日のお役に立てばと思っております。

C04-1 障がい者を抱えた御家庭と共に歩む歯科訪問診療の症例報告～口腔ケアを通じ障がい者本人と家族の生活意欲の向上～

発表者：川崎正仁（NPO法人日本総合リハビリテーション協会）歯科医師
共同発表者：奥山光子、奥井早苗、鈴木由美子

担当者のコメント：昨年紹介した事例を引き続き報告、支えている家族の喜びも含めこの事例とともに歩んだ4年間の報告をいたします。

【概要】交通事故による脳性麻痺のため、後遺症を抱えたまま在宅生活が始まる。本人と家族は共に、在宅での医療・福祉サービスにも慣れることを目標にするなかで、後遺症は言葉の障がいや記憶、理解力、感情表現の低下という高次脳機能障がいを伴い、食事に際しても咀嚼障がいもあり丸飲み状態であった。在宅より口腔ケアを依頼され、障がい者を抱えた家族と共に歩む歯科訪問診療がどうあるべきか症例を通して我々は昨年の同会で報告した。【結果】介入当初は身体に触れることも拒絶していたが、多職種が連携し目標を1つにして根気よく介入する事で、現在では通達性の自立の訓練に至った。食事では、舌が左右に動き咀嚼運動も認められるようになり口腔ケアを通じて、障がい者本人の生活向上へと変化がみられた事が、支えている家族の喜びとなり意欲的な介護にもつながった。【考察】今回は事故当初の頭部CTと6年後経過した現在のCT画像を比較検証した考察を報告する。

C04-2 胃ろう造設の御利用者様への対応における医療と介護の連携について

発表者：松本俊英（NPO法人日本総合リハビリテーション協会）介護職（管理者）
共同発表者：新倉尚、有馬淳子、山崎貴大、廣瀬裕子、薄井信子、川崎正仁

【背景】摂食嚥下障がいにより病院等で胃ろうを造設された方が在宅に帰られた時、その後の管理不足で栄養状態や口腔状態が不安定な状態、ベッド上拘束時間等の問題を抱え、結果ADLが落ちていくことが多い。【目的】私達は脳梗塞発症に伴う嚥下障がい、声帯麻痺が既往の利用者様に対し、医療と介護が連携した機能回復に向けた環境構築の成果の一例を提示する。【概要】本人、家族、担当医師、CM、介護職員による担当者会議等において情報を共有し、医師、本人、家族、CMの意見等を反映させ一貫性あるプログラムの提供でその効果を検証した。【結果】関係者全員の認識の統一により、本人のモチベーションの維持、各々の立場に応じた対応において、我々の提供するプログラムの実効性を確認し通所介護としての役割を果たせた。【結論】様々な既往を有する利用者様への対応には、取り巻く関係者が常に情報を共有し一貫性ある対応の構築がプログラムの実効性を高める。

C04-3 家族指導とチームアプローチ

～「口から食べる」を管理する～

プレ大会 報告

広島プレ大会(6月15日:広島市) 大阪プレ大会(7月13日:大阪市)

今年度は岡山大会に向け、プレ大会開催が多く開催されました。岡山大会を目前にした6月、7月にもそれぞれプレ大会が行われ、大会に向けての盛り上がりの大きな後押しとなりました。やはりここでも共通したのは『地域』という言葉でした。

広島プレ大会

大会長 井手下 久登

テーマ:「地域包括ケアの現状と未来」
「医療と福祉の真の連携とは」

広島プレ大会を、平成26年6月15日(日)に広島医師会館において開催し、医療・介護従事者、一般市民の合計、約100人のご参加をいただきました。

本大会は、「地域包括ケアの現状と未来」医療と福祉の真の連携とは」をテーマに、基調講演と交流会が行われました。基調講演では、

まず、第20回岡山大会会長、青木内科小児科の青木佳之先生が、「地域包括ケアにお



ける医療と福祉の連携」について講演されました。次に、はたのりハビリ整形外科の畑野栄治先生が、「地域包括ケアの医師の役割」について講演されました。そして、株式会社ねこの手の伊藤亜記先生が、「地域包括ケアの現状と未来」について講演されました。

交流会では、「地域包括ケアでの各職種の役割」をテーマに、各職種の5人の先生が講演されました。まず、いでしたクリニックの下野敏広先生が、「通

生が、「通所リハビリテーションの役割」について講演され、次に、訪問看護ステーションみなみの看護師の菅野

香代先生が、「訪問看護…医療依存度が高く、介護力の低い方への架け橋として」急性期病院と在宅をつなぐための課題」について、次に、あすか居宅介護支援事業所のケアマネジャー三原千春先生が、「地域包括ケアにおけるケアマネジャーの役割」について講演されました。そして、訪問看護ステーション草津かもめのPTの高橋智晴先生が、「訪問リハビリの役割…他職種に伝えたい! 在宅でのリハビリ専門職の情報収集

大阪プレ大会

テーマ:「地域包括ケアシステムは在宅ケアのあり方を大変革する!」

7月13日関西地区大阪プレ大会は 第二回全国の集いが行われた大阪リバーサイドホテルに 主に関西地区でしたが 鹿児島や高知鳥取東京等からも、会員スタッフ113名、非会員43名、合計156名が集まり開催されました。

テーマは、全国の集い in

力」について、最後に、広島市口田地域包括支援センターの元廣緑先生が、「医療・介護・地域のはし渡し役としての地域包括支援センターの関わり」について講演されました。5人の先生の講演の後、活発な意見交換会が行われ、盛会のうちに無事終了することができました。大会を開催するにあたり多大なご協力をいただいた関係者の皆さまに、改めて感謝申し上げます。(大会長 井手下 久登氏、プレ大会報告書より)

岡山と同じく「地域包括ケアシステムと在宅ケアを支える診療所市民の役割」としました。

そして今年4月より病院機能の転換施策として地域包括病棟の導入や在宅復帰率の重視等がすすめられたように地域包括ケアシステムは、病院のあり方も在宅ケアのあり方



も根本的に見直す大変革である」と認識し、サブテーマは「本音で語る在宅医療ケアのこころ」とし、在宅ケアに取り組むみはじめた初心と実践の20年の歩みを振り返り、在宅ケアに取り組む志の確認と継承をめざしました。

■基調報告は 苛原実 NPO会長から「ネットワークはいらば診療所の歴史でもあった。医療は生活のうえに成り立つ。医療福祉は地域コミュニティの重要な役割がある。地域包括ケアシステムの完成めざして、一人ひとりが持ち場で実践を積み重ねよう。」とされました。

■記念講演は 山下護 厚生労働省保険局総務課課長補佐から「日本が高齢化が進むも総医療費は低く効率的な医療を提供している。」

しかし日本の人口は長期的に急減する局面に入り人口減少高齢化多死社会を迎えている。

日本の財政は厳しく社会保険関係費の増加等で歳出は90兆円を超えるが税収は40兆円、50兆円を超える国債等に依存している。

これからは地域により医療介護の需要ピークの時期が大きく異なることに合わせて地域包括ケアシステム施策をすすめたい。」とありました。

■特別報告は 松尾美由起 松尾クリニック院長から「1985年にクリニックを開設し外来診療と共に在宅医療を開始。」

当時在宅医療は模索時代しかし患者さんとの人間関係は非常に濃く共に人生を歩んでいる感があった。

在宅医療現場での熱い思いを支えに実践した(経管栄養・遠隔地医療・ラップ療法・在宅人工呼吸器・難病・在宅ホスピスなど)。

今は30年前とは在宅医療の形態も変わり、チーム医療の中で患者家族の意識も変わってきた。以前ほど患者さんや家族と接する時間が濃く感じなくなったが、しかし人が人を思う気持ちを大切に支えたい。」とうけました。

■実践報告交流会は 宮城信行 宮城医院(天理)院長が座長され、6人の多職種在宅ケアの現場からの報告がありました。

①「地域の中の小規模多機能型居宅介護」ゆーり(高槻)介護福祉士 福嶋二郎

②「認知症と訪問看護」訪問看護ステーション来夢(八尾) 看護師 砂山享美

③「介護職とすすめる理学療法」宮城会(天理)理学療法士 中川和夫

④「診療所からステーションを開拓して」菜の花訪問看護ステーション(生野)看護師 西村和美

⑤「患者会活動を通じて思うこと」患者会・松樹会(八尾) 市民 川崎佐智子

⑥「ケアを提供し利用する家族として」菜の花(生野)代表 岡崎和佳子

■意見交流討論会は「地域包括ケアシステムと診療所市民の役割」私たちのこれからの課題」をテーマに 中嶋久矩NPO監事を座長に活発に行われ、最後にNPOへの入会の案内と全国の集いin岡山への参加アピールで、関西地区大阪プレ大会を成功の内に閉会しました。

(大阪プレ大会事務局長 中嶋 久矩氏・プレ大会報告書より)

新規購読のご案内 高齢者住宅新聞

～サマー特大号(8月6日号)の主な特集内容～

- 高齢者住宅・施設事業者 運営居室数ランキング500法人
 - ・サ付き住宅供給ラッシュの影響
 - ・特定施設の供給動向
 - ・新規参入組、続々ラングイン
- 診療報酬改定・消費増税の影響
- デイサービスの将来像
- サ付き住宅の事業モデル研究
- 認知症者の行方不明事故問題を探る

高齢者の住まいと介護・医療を考える
 高齢者住宅フェア
 2014in大阪(入場無料)
 11.5・6
 会場:インテックス大阪3号館
 150コマのブース展示と
 セミナー50講座の総合イベント
 主催:高齢者住宅新聞社

高齢者住宅新聞
 媒体概要

- 発行形態 定期購読・タブロイド版(20ページ) 毎週水曜日発行(月4回)
- 主要読者層 施設運営会社、介護サービス会社、医療法人、社会福祉法人、人材サービス、給食・配食会社、不動産・建設会社、土地所有者、設備機器・建材、システム関連、金融関連、自治体ほか

年間購読料

20,000円(税別)※送料込

TEL

03-3543-6852

※高齢者住宅新聞購読者のご用命のため、お名前、会社名、ご連絡先、ご住所をお知らせ下さい。

ホームページ

<http://koureisha-jutaku.com>

新聞購読申込

メール

info@koureisha-jutaku.com

FAX

03-3543-6853

下記に必要事項をご記入の上FAX下さい。

株式会社高齢者住宅新聞社 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15
 TEL:03-3543-6852 FAX:03-3543-6853 <http://www.koureisha-jutaku.com>

厚生労働省担当との意見交換会

これは、当 NPO の年間事業として行われているいくつかの事業のうち『制度に対する現場からの提案』に関わる活動報告です。

目的として、「厚生労働省の法律立案者が求める情報を把握し、その情報を提供できる体制をとることで厚生労働省担当官との信頼関係を構築し、実現可能な制度提案を、時期を逃さず行うことができる体制を構築することを目標に、厚生労働省の方との交流の機会を設ける」としています。（活動報告書より・・・）

特に『疑問点の表明』にとどまらず『ではどうしたら良いのか』などの『具体的解決への方向性』が見えるような意見交換会を目指すよう心がけました。

今期は 2 回行われました。

第 1 回意見交換会 2014 年 4 月 19 日（土）東京

当ネットワークからの参加者：苛原 実、藤村淳子、長縄伸幸（文書での参加）、大澤 誠、畑 恒土、石田一美、吉永隆行

第 2 回交流会 2014 年 7 月 12 日（土）大阪

当ネットワークからの参加者：苛原 実、長縄伸幸、大澤 誠、藤村淳子、畑 恒土、中嶋久矩、中嶋啓子、岡崎和佳子

（以下は、畑事務局長による総括です。）

今回に至る背景

私達はネットワークの活動の中で厚生労働省の多くの方と様々な付き合い方をしてきました。今井議員に口利きしていただき団体交渉のように厚生省の担当官と渡り合った初めの頃は何という物わりの悪い人たちかとも思ったことがあります。しかし多くの方とお付き合いする中で、厚生労働省の皆様が本当に良い制度にしたいと思っていることは信じる事が出来るようになりました。介護保険が導入され、在宅医療に関しての環境は格段に整備され、医師会も在宅医療を前面に掲げるようになり、厚生労働省にわざわざ働きかけなくてもいいのかとの感覚になっていたところに今回の同一建物の診療報酬に対して衝撃的な改定が行われ、再度厚生労働省に目を向けざる得なくなったというのが正直なところです。

なぜこのような機会を設けたのか？

現実には厚生労働省のマンスパワー不足が根底にあり十分な現場の情報を取り入れて制度を構築していくだけの余裕が無いように思われます。「制度改定ごとに苦情は山ほど出るがその苦情を解決する提案が欲しい」との声に驚きと共にすぐに動かなくてはとの思いに駆られました。診療報酬などに関しては様々な団体からいろいろな意見が出されていますが、自分たちの報酬を減らしてもよいとの提案にはまずお目にかかりません。

私達診療所・市民全国ネットワークは在宅医療がうまく機能し、より多くの方が在宅医療を受けて幸せな日々を送れるようにしたいとの目的を共有した様々な立場の人の集まりであり、サービスの提供側だけの集まりではありません。

だからこそ、様々な立場の方が納得できるシステムの提案が可能であり、それを担うことが一つの使命でもあるのです。今年度から始まった厚生労働省の担当官との意見交換会はこのような状況認識から始まりました。

問題点の浮き彫り

金を稼ぐことを目的に制度を悪用する事業者があり、それを制度上で阻止しようとする中、制度改定により善良な事業者の活動が阻害される。こんな不幸なことはありません。

この数回の意見交換会の中で、いくつかの共通認識が生まれたように思います。

- 1) 厚生労働省の担当者に現場のことをもっとよく見てもらう必要がある。
⇒ 一人医師の診療所が 24 時間体制で看取りが可能である。ことがイメージできなかった。
- 2) 厚生労働省の方が制度化するにあたって見落とすことがある。
⇒ 有床診療所への転院が在宅復帰に認められていない。
- 3) 厚生労働省の思いが市町村までつながらない事実
⇒ 癌患者の認定審査などでの対応について、「申請があればその日のうちに対応している自治体もある」との表現で迅速な対応を促しているが現実にはなかなかそこまでいかない自治体が多い。
- 4) 管理体制、患者管理料、往診料、訪問診療料の評価については以下のように整理したらとの提案に収束しつつあります。
24 時間管理体制（24 時間往診を保障する体制）
患者管理料（患者に個別的なもので集合住宅などでも個別に考えるべきもの）
往診料（同じ資格の医師が動くことには変わりなく、一般診療所でも支援診療でも同じ評価を）
訪問診療料（①基本的な診療料＋②家での診療加算＋③非効率な診療加算）
①は基本、②で在宅診療を評価、③同一建物では減算
在宅医療の対象になるか否かは主治医の判断にゆだねるべきとの意見が多いが、この点に関しては利潤追求型の医師が付け入る余地があり今後の検討課題。往診料の考え方は多くの支援診療にとっての収入減になる一方、過疎地で孤軍奮闘している医師の不公平感の解消につながると思われる。

今回の意見交換会にていくつかの問題点について具体的な解決の方向性が提示されています。私たち NPO 法人が多く国民にも受け入れられる提案が出来ること知っていただき、今後の国の施策が『本当に良いものへと』進んでいくための力になればと思います。

Mail Magazine

今回は「風の萌」より会員紹介のコラムの2014.8月号を掲載いたしました。

この記事は毎月メールマガジンの記事として皆様に配布されている記事の転載版です。(スタイル等は一部変更しています。)メールマガジンでの配信はもちろん「多くの人に」、「迅速な」、配信が目的で、メールの特徴を発揮出来るものですが、現実としてメール配信されている数は「多くの人に」というにはまだまだ充実を計る必要があります。



このたび在宅ケア・施設ケアを支えるスタッフの一員として「在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク」の理事に参加させていただくことになりました。1995年この会設立の数年後くらいに当時はスキー場で有名な浦佐駅で降りて黒岩先生のユニークなデイサービス「地蔵さんの湯」を見学に行き、公民館に座って研修を受けたり、あの当時私の心に一番かかった志のある会として全てが新鮮で勉強になりました。あれから20年近くたちますが、毎年「全国の集い」に参加させていただき、長崎大会の時は石田先生のお手伝いも

新理事の紹介

「社会福祉法人野の花会」 理事長 吉井敦子

少しさせていただきました。26年前私は当時東京在住でしたが郷里の南さつま市(鹿児島市から車で1時間)に「福祉に文化を」の理念をもつて50床の特養「絵と彫刻のある憩いの園アルテンハイム加世田」を開設しました。創設当時より地域のご高齢な方がどんな心身の状態になられようとも「生涯支えられる」サービスをと地域状況に合わせて小さくても多くのサービスをにつくってきました。現在9施設29事業(無床クリニックと有床リハビリクリニックを含む)を行っています。5年前から3年間を費やし国に先駆けて「認知症になっても安心して住める町 加世田」をつくろうと東京より認知症の専門医にも参加していただき、地域の医師をはじめ、行政、市民、在宅介護・施設介護を支える多職種に呼びかけ二年前に14表からなる支援パ

スが出来一部では活用され大変喜ばれています。しかし、南さつま市は鹿児島県でも一番早く高齢者が減少する地域になってしまいました。現在私共の社会福祉法人野の花会では鹿児島市の中心部に小さいながらも複合施設ケアタウン「アルテンハイム鹿児島」とクリニックを建設中です。

28年の秋は「全国の集い」を鹿児島で開くことになっています。会場も確保でき、在宅医の先生方をはじめ、在宅介護を支える多職種の方々市民のお力をお借りしながら「在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク」の理念にそった大会にしていきたいと願っています。皆さまどうぞご支援をお願いいたします。

社会福祉法人野の花会
〒897-0002
鹿児島県南さつま市
加世田武田13877番地
TEL: 0993-5218715
E-mail: nonohana@pod.synapse.ne.jp

エレクトロニクスで病魔に挑戦

NIHON KOHDEN

わたしたちが、夢の実現をお手伝いいたします。
すべては、医院開業の成功のために。

61A-0294

60 おかげさまで創立60周年
ヘルスケアの未来を拓く

〒161-8560 東京都新宿区西落合1-31-4
創立/1951年8月
事業内容/医用電子機器の開発・製造・販売、医院開業支援

日本光電 医院開業支援 **検索**

<http://www.nihonkohden.co.jp/iryo/practice/>
E-mail: Kaigyo@mb8.nkc.co.jp

実践交流会アーカイブス バージョンアップ報告

実践交流会アーカイブスに検索機能を追加。
より簡単に目的の記事を見る事が出来ます。実践交流会アーカイブスの
現状と改善

実践交流会アーカイブスは、大会別、カテゴリー別にメニュー画面を提供して目的のリンクをクリックする事でPDFを閲覧する事が出来ます。

この方式の欠点は閲覧力が増えるにしたがって目的の内容を閲覧する事が難しくなる事です。

これらの問題点を検討してプルダウン機能を使った簡易検索が出来る様に致します。

これにより、大会、カテゴリーの種別を併せて検索する事が出来る様になり、より目的に合った閲覧が出来る様になります。

これからのアーカイブス

デジタルアーカイブはこれから次々とバージョンアップしていく予定です。

今後の計画として、

・実践交流会以外のデータを検索機能に統合。

・実践交流会以外のシンポジウムの原稿をアップ(検索機能に対応させます。)

・検索機能のバージョンアップ。プルダウンによるメニュー検索だけでなく、タグ入力により検索する機能の追加。

等を検討しています。

より多くの記録を、より良い環境で会員の皆様にご提供出来る様に、東京事務局はこれからもアーカイブスをバージョンアップしていきます。

実践交流会 デジタルアーカイブ

大会名、タイトルを選択
大会名: タイトル: 検索 Reset

No	大会名	タイトル	演題
1	第14 全国の集い 京都大会2008	①地域連携と活動	①地域連携と活動
2	第14 全国の集い 京都大会2008	①地域連携と活動	在宅ターミナルケアの普及のためにー研修医・医学生教育の意義についてー
3	第14 全国の集い 京都大会2008	①地域連携と活動	在宅療養支援診療所のできること、できないことー十井医院の実践ー
4	第14 全国の集い 京都大会2008	①地域連携と活動	24時間在宅医療における訪問看護の役割ー夜間臨時コールの窓口を引き受けてー
5	第14 全国の集い 京都大会2008	①地域連携と活動	在宅医療推進のための地域薬剤師会の取り組みー在宅医療におけるTPN調剤可能薬品を増やすためにー
6	第14 全国の集い 京都大会2008	①地域連携と活動	あざいリハビリテーションクリニックの試みー半過疎地医療のモデルを目指してー
7	第14 全国の集い 京都大会2008	①地域連携と活動	僻地中山間部における訪問リハ事業の展開についてー慢性的なマンパワー不足と専門職種としての役割の中でー
8	第14 全国の集い 京都大会2008	①地域連携と活動	地域での包括的リハビリテーション機能を有する当診療所の実践について
9	第14 全国の集い 京都大会2008	①地域連携と活動	地域における当院の役割ー医療から介護へのサポートー
10	第14 全国の集い 京都大会2008	①地域連携と活動	“三方よし”の地域密着型医療を目指すー地域とともに健康をつくる保健・医療・介護のチームー



発売以来10年、使用者の60%が年配の方。
こころのなぐさめに活躍する赤ちゃんサイズのおしゃべりする抱き人形です。



夢の子ミルル 夢の子ユメル 夢の子ネルル

季節や
時間に合わせて
おしゃべり



Healing partner
夢の子
ネルル

各9,500円(税別)

株式会社 タカラトミーアーツ TEL.03-5650-4901 www.takaratomy-arts.co.jp 「価格」は、すべてメーカー希望小売価格(税別)です。 タカラトミーグループ

NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

第 21 回 全国の集い in 北海道 2015 プレ大会@札幌 with Care Do 北海道

日時 10 月 11 日（土曜日）
13 時～17 時

会場 札幌ファクトリーホール

地域を支えるための育てあい
～フロンティアの地 北海道から～

対象・人数：道内の多職種・市民を中心に 100 名

互いが互いの存在を知り、繋がりあう事でケアがつながる。そんなプレ大会を狙っています。
「Care Do 北海道」は今年で第 2 回目の開催であり、北海道の保健・医療・福祉に関わる取り組みや課題を共有し、語り合い、北海道の未来を創造するために企画された北海道で初めての業界横断型の交流イベントとして、道内の有志が企画し開催するものです。多くの市民との交流・連携と研修の充実、新しい仲間を広げるというネットワークの考え、プレ大会テーマの「繋がる」に match したものとなっています。

活動予定

第 1 回 理事会
平成 26 年 9 月 15 日（月）
場所…総会開催地

第 20 回 全国の集い in 岡山 2014
平成 26 年 9 月 14 日（日）・15 日（月）
場所…岡山コンベンションセンター

臨時理事会
平成 26 年 9 月 13 日（土）
場所…岡山コンベンションセンター

第 2 回 理事会
平成 26 年 11 月 24 日（月）
場所…名古屋市

北海道プレ大会
平成 26 年 10 月 11 日（土）
場所…札幌ファクトリーホール

第 7 回 玩具療法士養成セミナー募集のご案内

玩具福祉学会では、玩具を用いた社会福祉援助活動を実践する専門家の養成を目指して本セミナーを実施してまいりました。このセミナーは人間生活の各ライフステージにおいて玩具の果たす役割とその活用方法を学び、適切な実践を行うことができる「玩具療法士」の養成を実施するセミナーです。現在各地域に於いて、多くの玩具療法士の方々が、御活躍中です。

多くの方々が、福祉現場での実践活動を広げる専門的な技法を学ぶ為に、今回も下記のようにセミナーを開講いたします。是非、受講いただきますようご案内申し上げます。

- 開催日 11 月 1 日（土）・2 日（日）
- 受講人数 50 名（申し込み先着順）
- 受講費用 2 万 5 千円（玩具福祉学会員 2 万円）
- 会場 こどもの城 8 階会議室
渋谷区神宮前 5-53-1
- 資格認定について
- ① 全日程を受講した方には玩具福祉療法士養成セミナー受講終了証明証を授与致します。
- ② 玩具療法士養成セミナー受講終了証明

証を有し、玩具福祉学会に入会后、実践事例レポートは常時受け付けます。2000 字以上を提出して、審査に合格した方には「玩具療法士」を授与します。

問い合わせ先
TEL：0422-48-8500
（理事長 小林るつ子宅）

お申し込み先
〒191-0041
東京都日野市南平 7-18-30
FAX：042-599-2949

風の萌

2014 年 9 月 10 日発行（第 027 号）

頒 価：1 部 50 円 会員は無料

◆ 発行 特定非営利活動法人（NPO）
在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

TEL: 052-848-8800 FAX: 052-848-8801

http://www.home-care.ne.jp/net/ E-mail: zenkokunet@home-care.ne.jp
〒458-0007 愛知県名古屋緑区簗山 3-119 カーサフクシマ C-32 号

◆ 編集「風の萌」編集委員

編集後記

岡山全国大会に向けて、皆様も忙しい日々をお過ごしのことと思います。

東京事務局でも風の萌に抄録集の発行と大忙しです。全国大会に向けてドンドン多忙になりますが、岡山大会を成功させましょう。

（東京事務局／犬童）